

国内オークション落札作品に見る ジェンダーバランス

国内オークション3社（SBI・NEW・SHINWA） 2020 – 2026

日本／海外 × 男性／女性 でみる落札額・作品数（全76回・22,484ロット・総額446億円）

国内オークション3社の落札結果を統合。落札額ベースで作家の99.5%を分類（点数ベースは未判別を含む）

2026年6月29日

NMWA Japan ジェンダーバランス調査 | 対象: 国内オークション3社（SBI・NEW・SHINWA）

本資料について

利用データ

SBIアートオークション（以下、SBI）／NEW AUCTION（以下、NEW）／SHINWA ART AUCTION（以下、SHINWA）が公開する落札結果データを利用
※ 他3社（毎日オークション・iARTオークション・Mallet Japan）は公開されている落札データがロット番号と金額のみで作家名・作品名の記載がないため分析がかけられず対象外とした。
分析期間は、SBI 2020年2月／NEW 2021年11月／SHINWA 2023年1月～2026年5月末までの各社開催分を利用（3社合計76回・22,484ロット・落札総額 約448億円）

対象および切り口

落札された作品の作家を「日本／海外」×「男性／女性」の4区分で集計。
分類の非対象（ブランド・宝飾・骨董・工芸・複数人ユニット・作家名空欄／3社計454点・約9.2億円）は母数から除外。未判別（作家名はあるが知識ベース未登録）は母数に含め未分類とする。

分析方法・分類範囲

各社公開の落札結果のPDFより落札情報を抽出し、解析・集計。判別された作家の作品で落札額の99.5%をカバー。未判別なものは、点数ベースで約9%（各一点あたり50万円以下の相対的に少額な作品）に当たる。よって、落札額ベースを本分析の主指標とする。

草間彌生の付記

日本人女性の落札額は草間彌生の影響が極めて大きいため、「草間を含む／除く」を併記する。

主な発見（落札額）

日本人女性の落札額シェア

31.3%

一見、相対的に高い数字に見えるが

草間彌生一人が占める割合が極めて高い

草間彌生を除くと

14.5%

へ半減

一部作家への過度な集中は日本女性作家の特徴

海外女性のシェア

0.9%

と極小

結果として、女性作家の評価は限定的

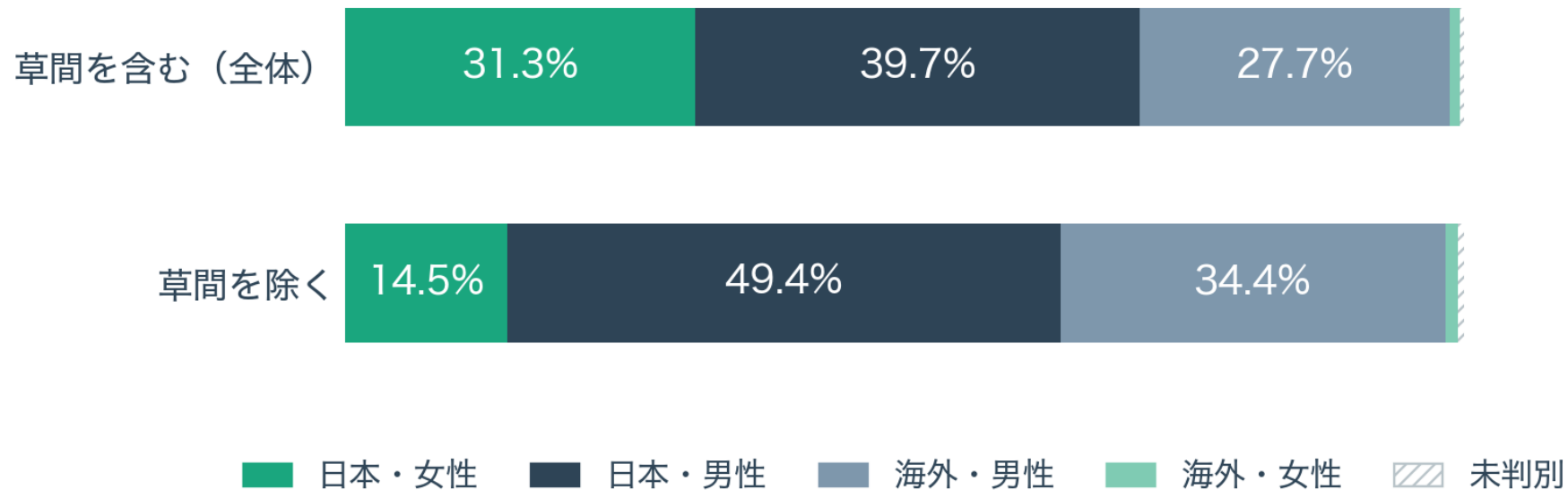
女性の落札額シェアは31.3%だが、その多くは草間彌生1人の突出（86.1億円）による。

草間を除いてしまうと女性は15%へ半減し、日本人男性49%・海外男性34%が上位に。

また、草間を除いても、一部の作家に評価が集中する傾向は続き、女性作家の認知や評価が限定的であることが窺える結果になっている。

落札額の構成比と「草間効果」

日本／海外×男女の落札額シェア（草間を含む／除く）



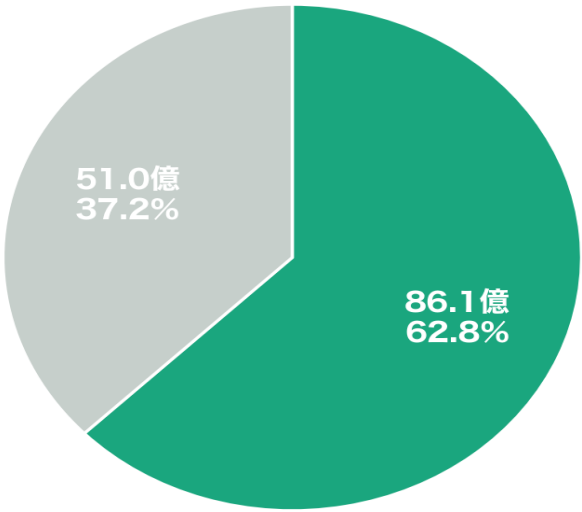
草間の市場での存在感が、際立っている。

もう一点、海外の女性作家の割合の低さが突出している。

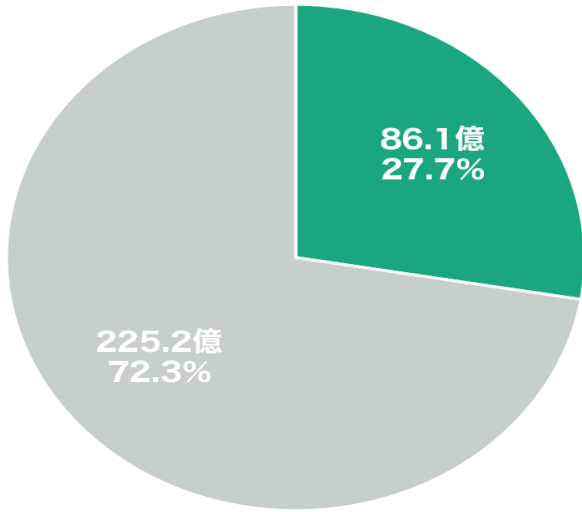
草間彌生の突出

日本人女性／日本人作家全体（男女計）に占める草間彌生の割合（落札額）

日本人女性の中で（計137.1億円）



日本人作家 全体の中で（計311.2億円）



■ 草間彌生 ■ その他の作家

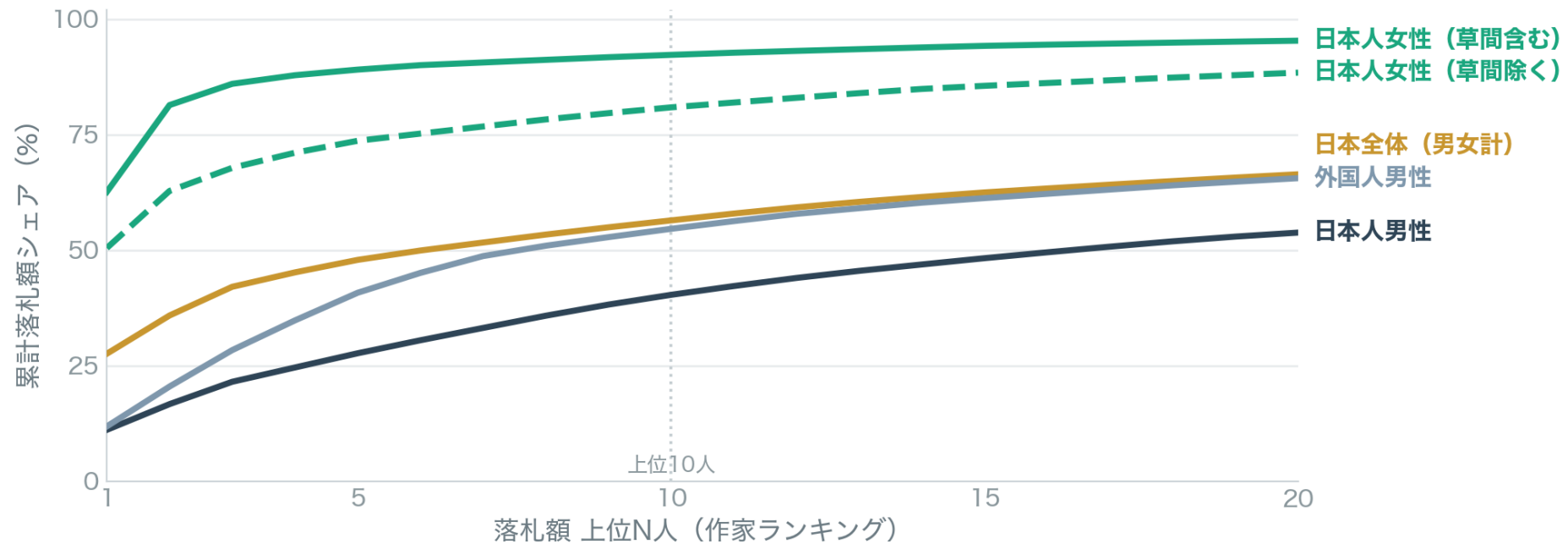
草間彌生は日本人女性の落札額の約63%（86.1億円）を一人で占めるだけでなく、日本人作家全体（男女計311.2億円）においても約28%を占め、1人で4分の1以上を占めている。

出典: 各社公開の落札結果 (SBI・NEW・SHINWA) | 全76回・22,484ロット・税抜Premium込

母数: 草間彌生 86.1億円 / 日本人女性 137.1億円 / 日本人作家全体 311.2億円

落札額の集中度 — 女性 vs 男性

上位作家への落札額の集中（累計シェア・草間 含む／除く）

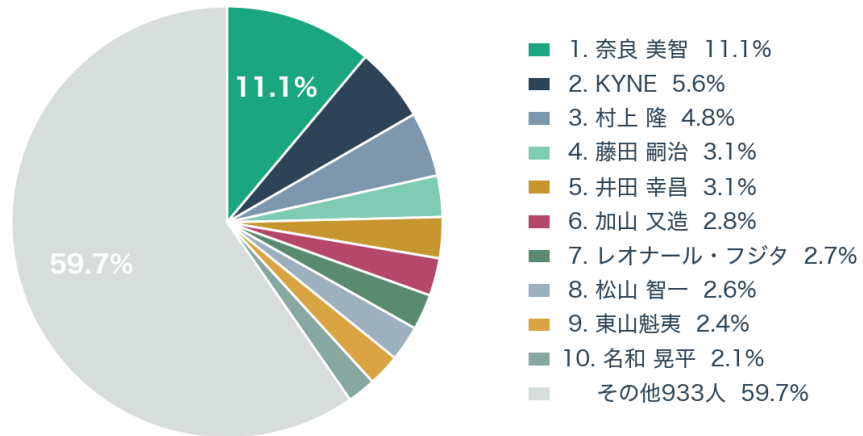


日本人女性は上位1人（草間）で62.8%、草間を除いても上位1人（ロッカク）50.5%・上位3人67.8%と極端に集中している。一方、男性は上位3人で約3割と分散し人気作家の層が厚い。過度な集中は女性側だけにみられる現象で、女性作家の市場での認知や人気の偏りを示した結果となっている。

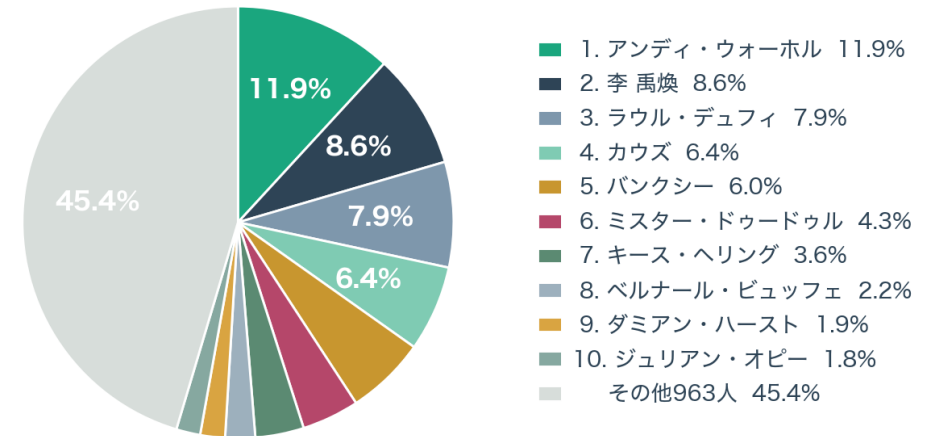
上位作家への集中の内訳 — 男性

落札額シェア・上位10作家（3社合算・日本人男性／外国人男性）

日本人男性（943作家・174.1億円）



外国人男性（973作家・121.5億円）

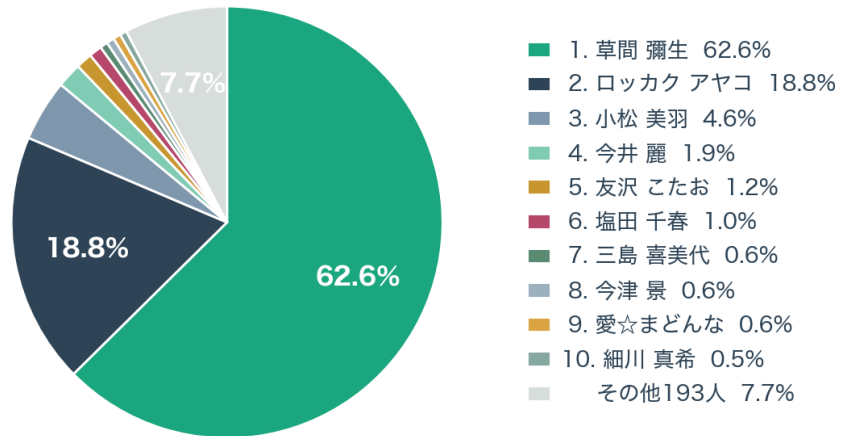


男性は上位が分散。No.1はそれぞれ、日本＝奈良美智11.1%・海外＝アンディ・ウォーホル11.9%にとどまり、特定作家への集中は小さい。

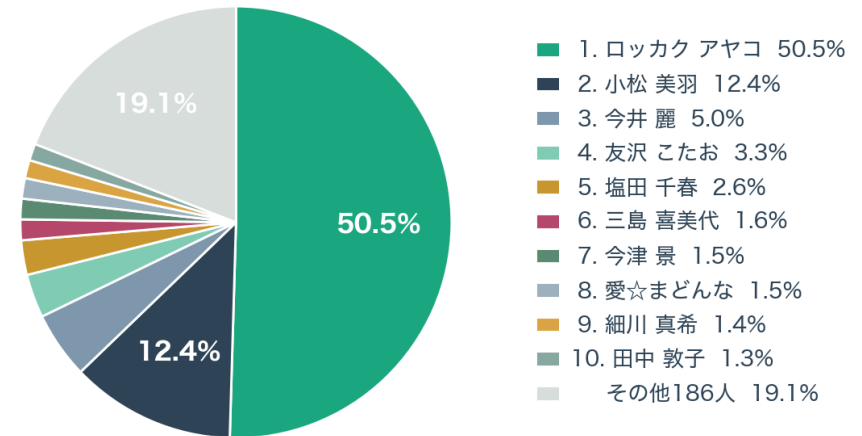
上位作家への集中の内訳 — 女性

落札額シェア・上位10作家（3社合算・日本人女性：草間を含む／除く）

日本人女性（草間含む）（203作家・137.1億円）



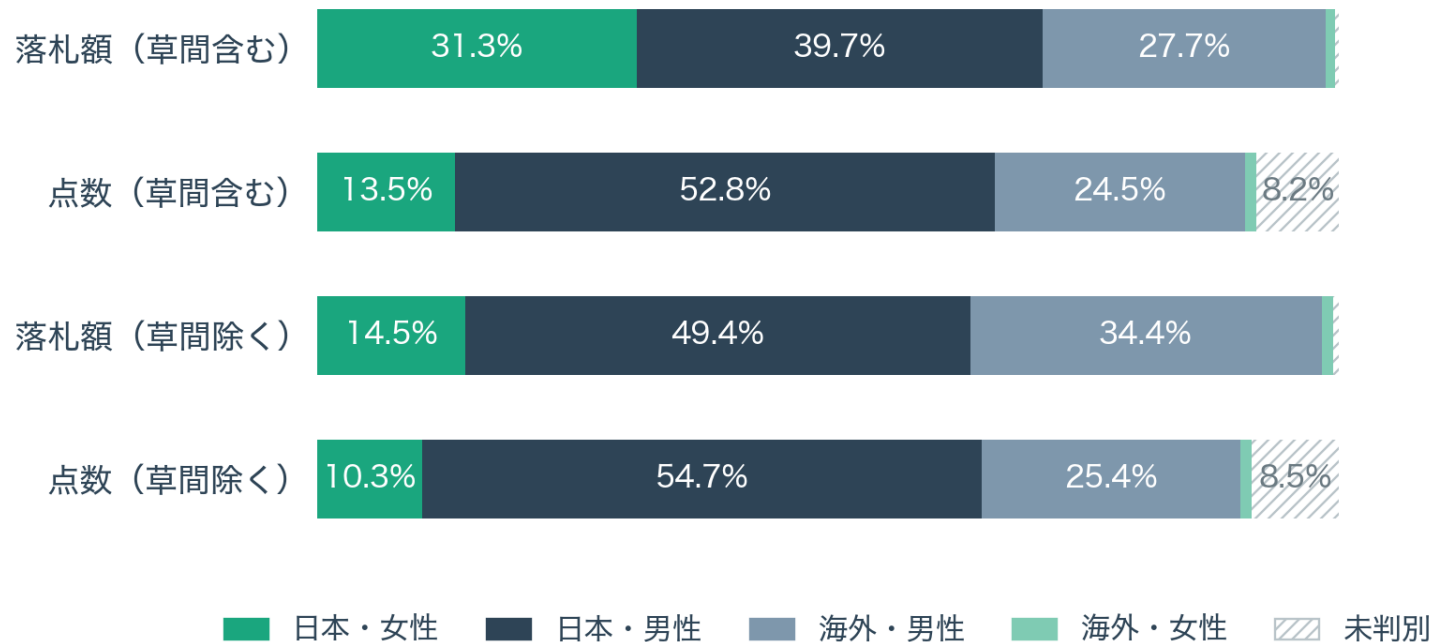
日本人女性（草間除く）（196作家・51.0億円）



女性は少数への集中が極端。草間彌生1人で62.8%を占め、草間を除いても、次はロッカク アヤコ1人で50.5%を占める結果になる。

作品数ベースと落札額ベース

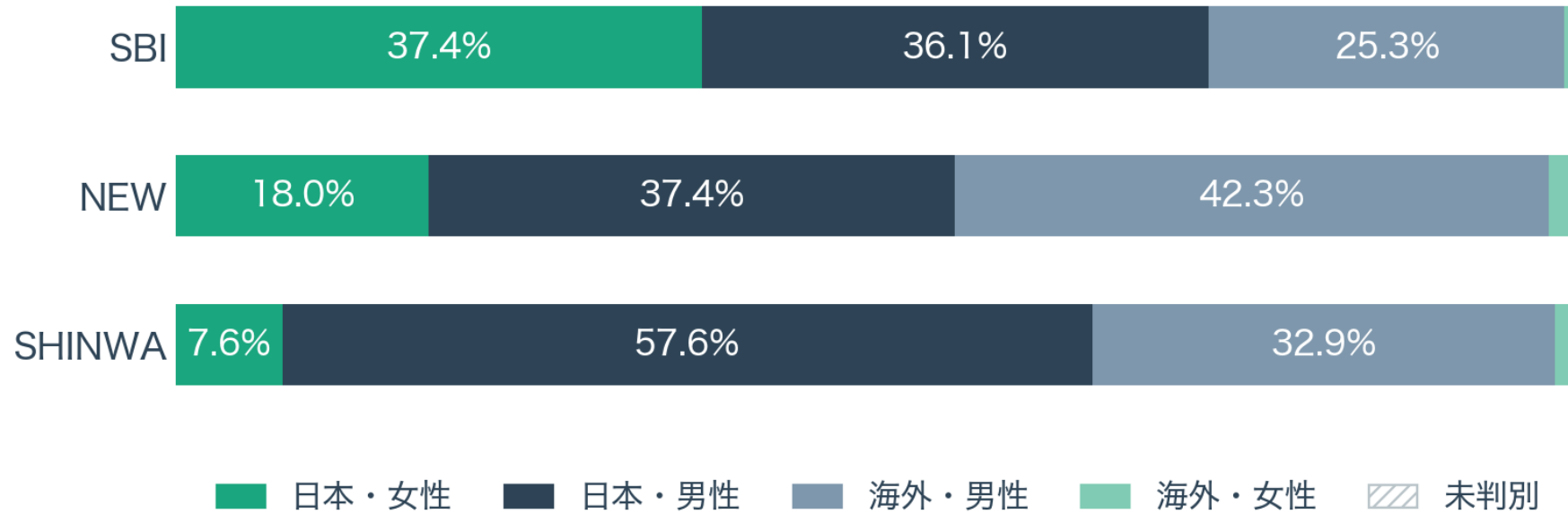
構成比の違い — 草間を含む全体と、草間を除いた場合



日本人女性は点数13.5%に対し落札額31.3%と、高単価に見えるが、実際は、草間彌生を除くと落札額は14.5%へ半減（点数10.3%とほぼ同水準）になり、高単価の主因は草間1人への集中であることが分かる。他方、海外男性作家の落札単価が高いことが窺える。

3社の比較 — 会社で異なるジェンダー構成

各社の落札額シェア（草間を含む全体）



SBIは草間効果で日本人女性が最大級（37%）、NEWは海外男性が42%と最も国際的色が高い、SHINWAは近代日本画・洋画中心で日本人男性58%と最も男性偏重。オークション各社の特性が出て、構成は大きく異なる。

まとめ

草間彌生の影響が決定的

日本人女性額の約63%、日本人作家全体でも約28%を草間彌生1人でしめる。ジェンダーを超えて圧倒的な人気を示している。

市場評価は男性に集中

草間を除くと日本人男性49%・海外男性34%が上位。額の大半は男性作家。

女性作家は上位に偏りが激しい

上位62%超を占める草間彌生を除いたとしても、次は、ロッカクアヤコ(50.5%)と小松美羽(12.4%)で6割を占めるという構造が続き、女性作家の市場での人気と認知が極端に偏っていることが分かる

海外女性は極小

海外女性は落札額0.9%・点数1.1%。
日本における、海外の女性作家の人気は非常に限定的。

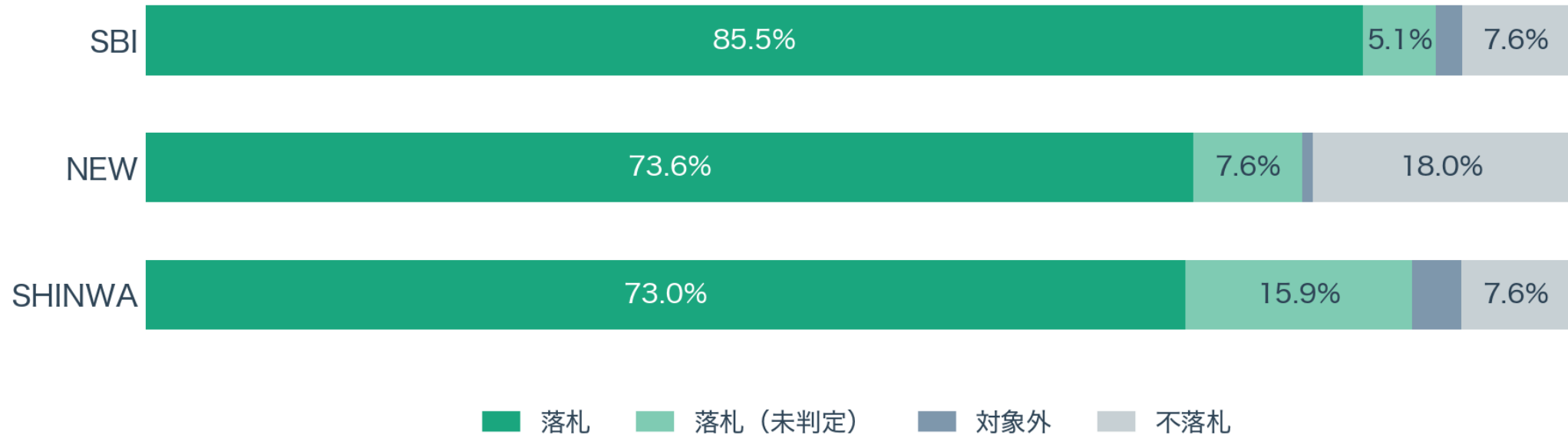
アペンディックス オークション会社別の個別データ

SBI / NEW / SHINWA

各社の落札額・作品数の構成比を個別に収録

3社の落札データ内訳

全出品ロットの内訳（点数ベース・全76回／22,484ロット）



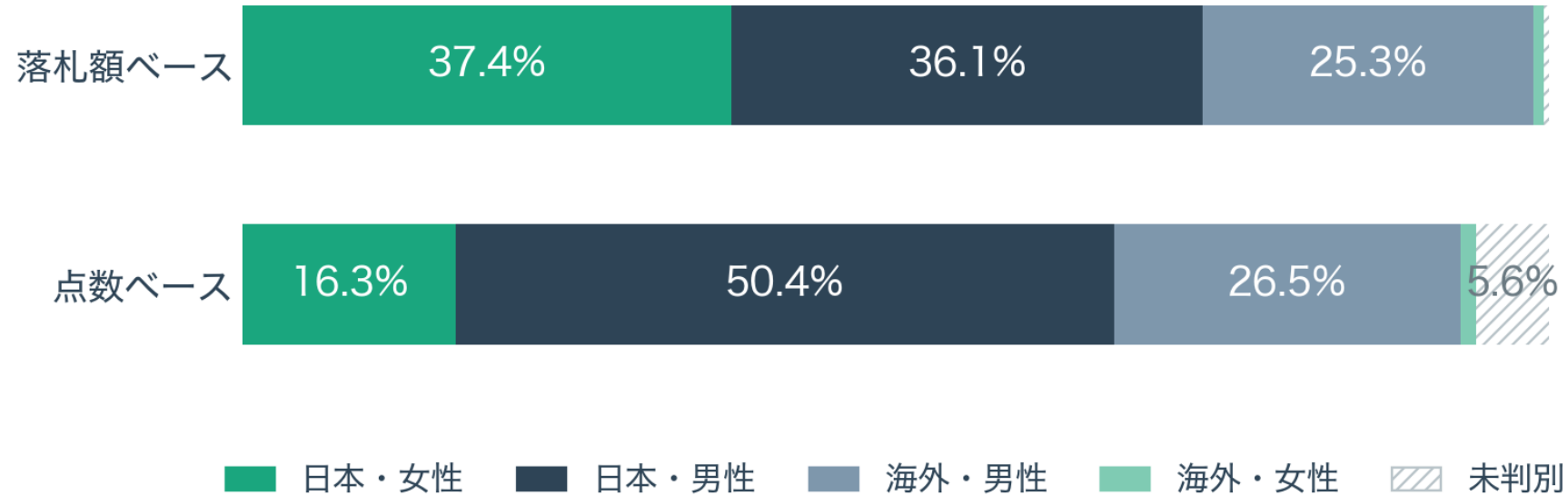
全出品（点数）の内訳。落札・性別判定済はSBI 85.5%／NEW 73.6%／SHINWA 73.0%。

対象外（ブランド・工芸等の非美術品＋作家名空欄＋複数人ユニット）はSBI 1.8%／NEW 0.8%／SHINWA 3.4%。

点数ではSHINWAの未判定15.9%・NEWの不落札18.0%がやや高いが、未判定の作品は低単価のため、金額ベースの性別判定カバー率は3社とも99%超（SBI 99.6%／NEW 99.2%／SHINWA 99.1%）となっている。

① SBIアートオークション

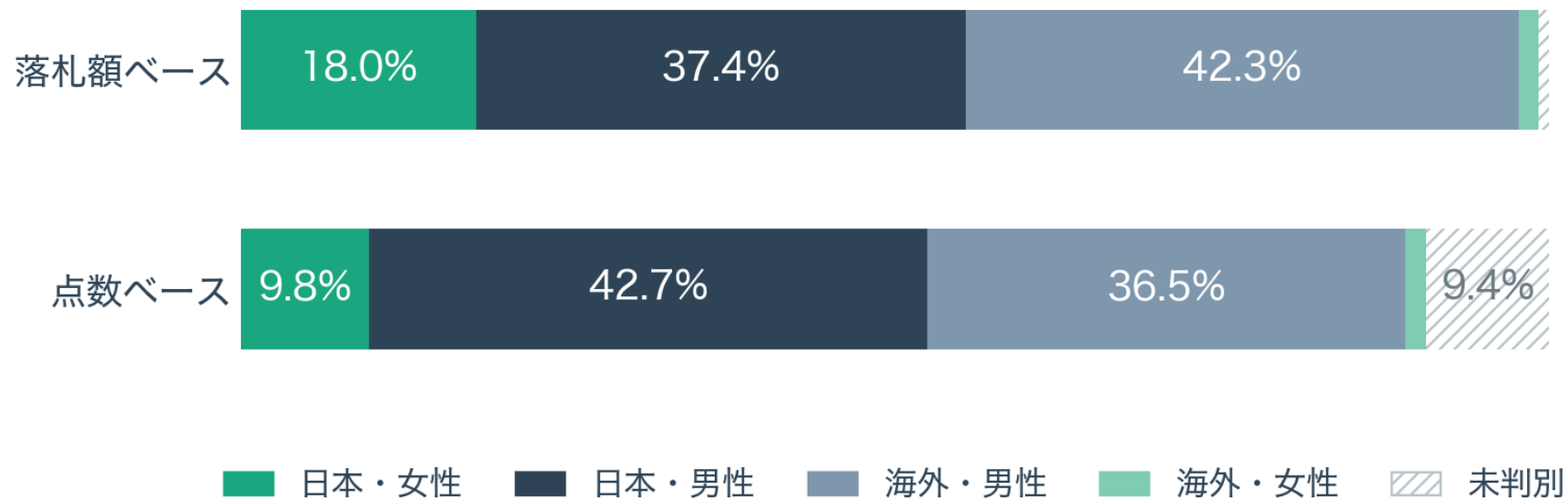
落札額・作品数の構成比（全44回・2020-2026・342億円）



草間効果で日本人女性が最大の割合を占める（37%）。草間を除くと18%へ。海外男性25%。
3オークションの中で最も女性シェアが高い。

② NEW AUCTION

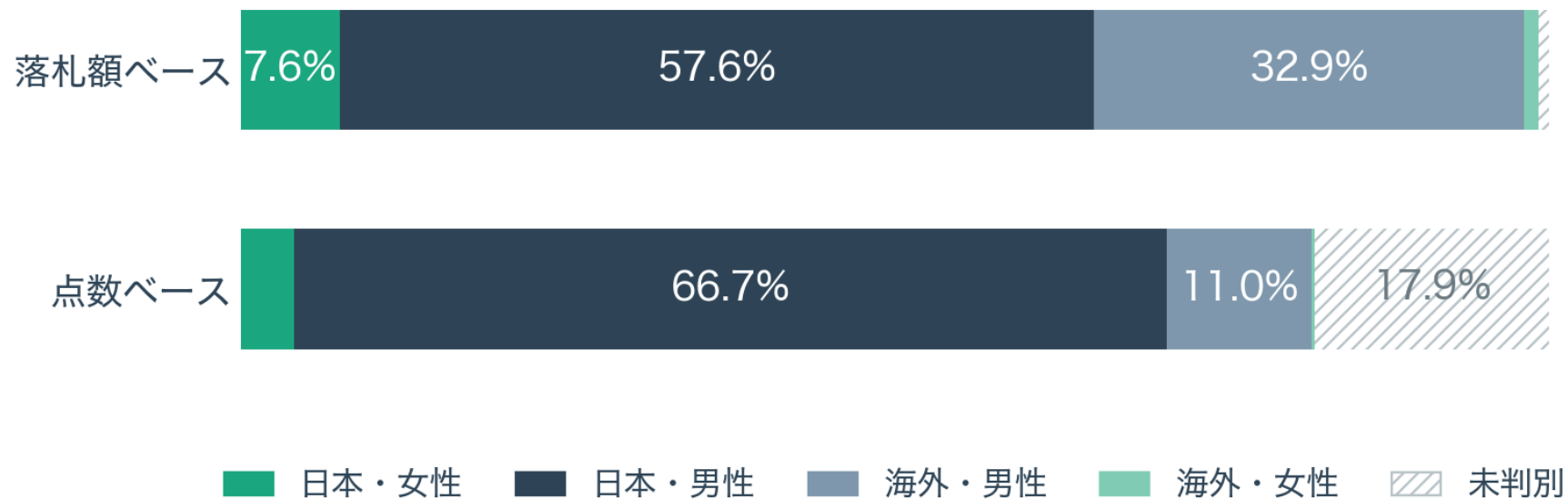
落札額・作品数の構成比（全11回・2021-2026・29億円）



海外男性が42%と3社で最も高く、版画・現代美術が中心で最も国際的。
日本人女性18%・日本人男性37%。

③ SHINWA ART AUCTION

落札額・作品数の構成比（全21回・2023-2026・75億円）



日本人男性が58%と3オークションで最も高く、出品作品が近代日本画・洋画が中心であることを受けて最も男性偏重。
日本人女性は8%と3社最低。時計・宝飾等の非美術品も一部含む。

本調査に関する問い合わせ先

一般社団法人NMWA日本委員会

ジェンダーバランス調査チーム

survey@nmwa-japan.com